

教科名	国語		担当者				
科目名	言語文化						
履修学年	1	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）		新編 言語文化（大修館書店）					
使用副教材（出版社）		改訂版 漢字検定 7～2 級対応 書きたくなる アシスト常用漢字（数研出版）、 新訂 国語図説 六訂版（京都書房）					
学習の到達目標	<p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を次のように育てることを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。また、古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古文特有の表現などについて理解することができる。		自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫し、それらを踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。また、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。		生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにすることができる。そして、文化としての言語、文化的な言語生活、多様な言語芸術を理解したり尊重したりすることにとどまらず、自らが継承、発展させていく担い手としての自覚をもつことができる。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、課題考査 小テスト 課題、成果物 発表、パフォーマンス 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、課題考査 小テスト 課題、成果物 発表、パフォーマンス ノート、ワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返り活動 学習状況の観察 小テスト ペア、グループワーク 課題、成果物 ノート、ワークシート 		
評価の重み	40%		40%		20%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	現代文篇 1 ことばと出会う 古文篇 1 古文に親しむ 漢文篇 1 漢文に親しむ		『言葉の森を育てよう』『季節の言葉と出会う』『古文への招待』『いろは歌』『古文冒頭選』『児のそら寝』 訓読のきまり 格言 再読文字			
	期末考査まで	現代文篇 2 表現を味わう 古文篇 2 随筆を楽しむ 漢文篇 2 現代に生きることば		『水かまきり』『とんかつ』『徒然草』『枕草子』『守株』『五十歩百歩』『蛇足』			
2	中間考査まで	現代文篇 3 文化を見つめる 古文篇 3 物語の広がり 漢文篇 3 古人に学ぶ		『足し算の文化』『ほどほどのデザイン』『伊勢物語』『平家物語』『論語』			
	期末考査まで	現代文篇 4 物語を受け継ぐ 古文篇 4 旅への思い 漢文篇 4 漢文を楽しむ		『羅生門』『土佐日記』『更級日記』『完璧』『鶏鳴狗盗』			
3	学年末考査まで	現代文篇 5 ことばと生きる 6 近代文学に触れる 古文篇 4 旅への思い 漢文篇 4 漢文を楽しむ		『祖母が笑うということ』『ことばは光』『コルベ神父』『夢十夜』『形』『おくのほそ道』『人面桃花』			
学習についてのアドバイス		「言語文化」では、「現代文」「古文」「漢文」いずれにおいても、「言語文化」の担い手として「言葉」を意識した学習活動を期待しています。さらに表現する能力・伝え合う力・思考力・想像力・理解力に向けて、幅広い言語感覚を磨いてもらいたいと思っています。教科書・補助教材・補助資料を通して、主体的に学んでいってください。					

教科名	地理歴史		担当者				
科目名	歴史総合						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	歴史総合（実教出版）						
使用副教材（出版社）	明解 歴史総合図説 シンフォニア（帝国書院）						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とした世界の歴史との関わりから、日本の歴史を理解できるようになる。 ・現代的な諸課題の形成にかかわる事柄を、歴史的な見方や考え方を働かせて、考察できるようになる。 ・資料を活用して様々な情報を適切に選び、多角的に考察・構想できるようになる。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史の歴史的事象について、世界の歴史とのかかわりに注視しながら、日本の歴史を理解できている。 ・欧米やアジアの近現代史について理解できている。 ・学習課題について、さまざまな資料を適切に活用し、説明したりまとめたりすることができている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象について、その背景を理解した上で自分なりに考え、まとめたり発表したりすることができている。 ・世界と日本のかかわりを踏まえて、諸課題を多角的・多面的に考察することができている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史を理解したうえで、世界の国々に興味・関心を持ち、自国の歴史や文化と同様に他国の文化や歴史を理解・尊重できている。 ・より良い社会の実現を視野に、学びを活用して学習上の課題の解決にむけて自ら考え取り組むことができている。 		
評価の方法	・定期考査		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートや課題プリント等の記述 ・授業時の発言や発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートや課題プリント等の提出 ・授業時の態度や発言 ・単元の振り返り 		
評価の重み	50%		20%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」		<ul style="list-style-type: none"> ・17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出～幕府の諸改革と東アジアの世界 ・イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 ・フランス革命とウィーン体制 ・アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 ・オスマン帝国の衰退とロシア ・アヘン戦争の衝撃と日本の開国 ・江戸幕府の滅亡 			
	期末考査まで	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代		<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一 ・明治政府の諸改革 ・日本のアジア外交と国境問題 ・自由民権運動と大日本帝国憲法 ・帝国主義の時代へ ・朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 			
2	中間考査まで	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会		<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争後の東アジア ・日露戦争と東アジアの変動 ・日本の産業革命 ・第1次世界大戦 ・ロシア革命とソ連の成立 ・米騒動とデモクラシー ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 			
	期末考査まで	第6章 経済危機と第二次世界大戦		<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの民族運動 ・第一次世界大戦後の欧米諸国 ・ひろがる社会運動と普通選挙の実現 ・世界恐慌と各国の対応 ・ファシズムの時代 ・満州事変と軍部の台頭 			
3	学年末考査まで	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代社会		<ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争と戦時体制 ・第二次世界大戦の勃発 ・第二次世界大戦の終結 ・国際連合の成立と冷戦 ・日本占領と日本国憲法 ・朝鮮戦争と日本 ・植民地の独立～国際秩序の変容 			
学習についてのアドバイス		授業時において適宜アドバイスします。					

教科名	数学		担当者				
科目名	数学 I						
履修学年	1	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	新 高校の数学 I（数研出版）						
使用副教材（出版社）	新課程 新高校の数学 I 対応 教科書学習ノート数学 I（数研出版）						
学習の到達目標	数と式及び2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	定期考査 確認テスト・小テスト		単元テスト グループ活動		振り返りシート ノートなどの課題提出 自主レポート		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第1章 数と式 第1節 数と式の計算		1. 計算の基本 2. 単項式と多項式 3. 多項式の加法と減法 4. 多項式の乗法 5. 展開の公式 6. 因数分解 7. 展開、因数分解の工夫			
	期末考査 まで	第1章 数と式 第1節 数と式の計算		8. 根号を含む式の計算 9. 実数			
2	中間考査 まで	第1章 数と式 第2節 1次方程式		1. 1次不等式 2. 不等式 3. 不等式の解			
	期末考査 まで	第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ		1. 関数 2. 1次関数のグラフ 3. 2次関数のグラフ（1）			
3	学年末考査 まで	第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化		4. 2次関数のグラフ（2） 1. 2次関数の最大値・最小値 2. グラフと2次方程式 3. グラフと2次不等式			
学習についてのアドバイス		定期考査に加えて、単元テストや課題、自主レポートの提出があります。定期考査の勉強だけでなく、日々の授業に前向きに取り組みましょう。					

教科名	理科		担当者				
科目名	化学基礎						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	高等学校 新化学基礎(第一学習社)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解して、科学的に探究するために必要な観察、実験などの基本的な技能を身に着けること 観察、実験などを行い、科学的に探究する力をもつこと 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする姿勢を身につけること 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	物質とその変化についての観察、実験を通して基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な基本的な実験技能を身につけているかどうか。その知識を用いて、具体的な性質や反応と結び付け、活用する力が身につけているかどうか。		観察、実験などを行い、物質とその変化を対象に情報の収集や仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得し、結果をまとめ発表することで、科学的に探究する力を身につけているかどうか。		物質とその変化に主体的に関わり、それらに対する気づきから日常生活や社会との関連性を発見したり、課題を設定し解決したりなど、科学的に探究しようとする態度を身につけているかどうか。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト ノートや実験レポート記述 グループ活動記録 		<ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返り ノートなどの課題提出 グループ活動記録 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素		<ul style="list-style-type: none"> ① 物質の分離(1)(2) ② 物質を構成する元素 ③ 元素の確認 ④ 物質の三態 ⑤ 実験 			
	期末考査まで	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 第2節 化学結合		<ul style="list-style-type: none"> ① 原子の成り立ち ② 同位体とその利用 ③ 原子の電子配置 ④ 元素の周期律と周期表 ⑤ イオン(1)(2) ⑥ 実験 			
2	中間考査まで	第1章 物質の構成 第2節 化学結合 第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式		<ul style="list-style-type: none"> ① イオン結合 ② 共有結合 ③ 金属結合 ④ 化学結合のできる物質 ⑤ 原子量・分子量・式量 ⑥ 実験 			
	期末考査まで	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応		<ul style="list-style-type: none"> ① 物質と粒子の数、質量、気体の体積 ② 化学反応式(1)(2) ③ 化学反応と量的関係(1)(2) ④ 酸と塩基 ⑤ 酸・塩基の強弱と分類 ⑥ 実験 			
3	学年末考査まで	第2章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 第3節 酸化還元反応 序章 化学と人間生活		<ul style="list-style-type: none"> ① 水素イオン濃度と pH ② 中和 ③ 酸化と還元 ④ 酸化剤と還元剤 ⑤ 酸化還元反応と電池 ⑥ 実験 			
学習についてのアドバイス		日々の学習とともに、考査のときのファイル提出、夏休みの課題等、提出物をしっかり提出してください。わからないときは周りの教員に積極的に質問してください。					

教科名	保健体育		担当者				
科目名	保健						
履修学年	1	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	1
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成すること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	現代社会と健康、安全な社会生活とその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに、それらの内容に関わる技能を身につけているかどうか。		健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるかどうか。		自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育て、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとしているかどうか。		
評価の方法	・定期考査 ・授業中の発言		・定期考査 ・ノートやレポート等による記述		・ノートやレポート等による記述 ・教師による行動観察 ・グループ活動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	単元名			学習内容			
1	1単元 現代社会と健康			1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復			
	2単元 安全な社会生活			4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法			
2	1単元 現代社会と健康			6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復			
3	1単元 現代社会と健康			15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり			
	2単元 安全な社会生活			1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全			
学習についてのアドバイス	自らの健康について、また、環境の変化や医学の急速な進歩、新たな健康問題などに興味を持ち、様々な健康課題を身近な問題としてとらえ、課題の解決方法を考えながら取り組むことが大切です。評価の観点を理解し、意欲的に取り組むようにしてください。						

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解しているかどうか。</p> <p>また基本的な技能や動きを身に付け、記録や技に挑戦しているか、試合をしたり、発表したりできるか、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるかどうか。</p>		<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い教え合おうとしたり、話し合いに貢献したりする等、健康・安全を確保し、自主的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
	Aコース		Bコース		Cコース		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・バドミントン ・水泳 ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・ソフトボール ・水泳 ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・バスケットボール ・水泳 ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動(マット運動) ・バスケットボール ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・器械運動(マット運動) ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・バドミントン ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動(マット運動) ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 		
学習についてのアドバイス	仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。						

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育(男子)						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解しているかどうか。</p> <p>また基本的な技能や動きを身に付け、記録や技に挑戦しているか、試合をしたり、発表したりできるか、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるかどうか。</p>		<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い教え合おうとしたり、話し合いに貢献したりする等、健康・安全を確保し、自主的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・テニス ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン ・卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・体づくり運動 ・体育理論(1単元 スポーツの発祥と発展) 						
学習についてのアドバイス	<p>仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。</p>						

教科名	芸術科		担当者				
科目名	美術 I						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	美術 I (光村図書)						
使用副教材(出版社)	なし						
学習の到達目標	<p>1.対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>2.造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>3.主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。		
評価の方法	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・課題プリント		・アイデアスケッチ ・完成作品		・課題プリント ・鑑賞・振り返りシート		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	自分を描く・愛する人を描く		<ul style="list-style-type: none"> ・描く対象となる人の写真撮影 ・プリントアウトと補助線を描く ・グレースケールによる調子の練習 ・目元のデッサン 			
	期末考査まで	自分を描く・愛する人を描く		<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆による下描きと描画 ・鑑賞・振り返り 			
2	中間考査まで	器をデザインする		<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・制作の方法 ・象嵌のデザイン ・アイデアスケッチ 			
	期末考査まで	器をデザインする		<ul style="list-style-type: none"> ・たたら造りと象嵌 ・型を用いた成形 ・削り仕上げ ・完成、鑑賞 			
3	学年末考査まで	レタリングのある色彩構成		<ul style="list-style-type: none"> ・レタリングする文字の選択 ・レタリング ・文字からイメージする色彩構成 ・アイデアスケッチ、配色計画 ・平面構成の下がき、彩色 ・完成、鑑賞 			
学習についてのアドバイス		美術の幅広い創造活動を通して「習得・活用・探求」の中で、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばしていきます。単元ごとに学習の目標やポイントをおさえ、主体的に取り組むことを期待します。					

教科名	英語		担当者				
科目名	英語コミュニケーション I						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	All Aboard! English Communication I (東京書籍)						
使用副教材(出版社)	All Aboard! English Communication I workbook (東京書籍)、英語へのステップ (東京書籍)						
学習の到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、相手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</p> <p>外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</p>		<p>場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。</p> <p>聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</p>		<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p> <p>言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
評価の方法	定期テスト 小テスト		スピーチの内容 英作文等の提出物		グループ活動 単元の振り返り ノートなどの課題提出		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	Warm-Up 1、Warm-Up 2、Warm-Up 3 Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko Pre-Lesson 2 I Like Junk Food! Communication 1 自己紹介		アルファベット、辞書の使い方 [言語材料] 疑問詞、Be 動詞、一般動詞、 [言語活動] 教室で使う表現や自己紹介の仕方を学び、英語で述べる			
	期末考査 まで	Lesson 1 Breakfast around the World		世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。[言語材料] 過去形 [言語活動] 好きな食べ物について、英語で述べる			
2	中間考査 まで	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas		オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。[言語材料] 進行形 [言語活動] 好きな動物について、英語で述べる			
	期末考査 まで	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku		被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。[言語材料] 助動詞 [言語活動] ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べる			
3	学年末考査 まで	Lesson 4 A Miracle Mirror		海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。[言語材料] to 不定詞 [言語活動] 行ってみたい場所について、英語で述べる			
学習についてのアドバイス		教科書を通して基本的な文法事項を学習し、それらを繰り返し練習しながら、英文を読み、理解する力をつけていきます。しっかりと基本的な文法事項を身につけ、自分の力で英語を読もうとする姿勢を持つことを期待します。					

教科名	商業		担当者				
科目名	ビジネス基礎						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	ビジネス基礎(実教出版)						
使用副教材(出版社)	ビジネス基礎問題集(実教出版)、全商商業経済検定模擬試験問題集3級(実教出版)、全商ビジネス計算実務検定模擬試験問題集3級(実教出版)						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じて、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のとおりにより育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学びビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。		ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスとコミュニケーション		1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス 3. コミュニケーション 4. ビジネスマナー 5. 情報の入手と活用			
	期末考査 まで	第3章 経済と流通の基礎 第7章 ビジネス計算		1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通 3. ビジネス計算の基礎 4. ビジネス計算の応用			
2	中間考査 まで	第4章 さまざまなビジネス 第5章 企業活動の基礎		1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業 6. ビジネスと企業 7. マーケティングの重要性			
	期末考査 まで	第5章 企業活動の基礎 第6章 ビジネスと売買取引		1. 資金調達 2. 財務諸表の役割 3. 企業活動と税 4. 雇用 5. 売買取引の手順 6. 代金決済			
3	学年末考査 まで	第8章 身近な地域のビジネス		1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向			
学習についてのアドバイス	授業で学んだことを日々の生活の中で見つけ、自身に関連付けられると良いです。すべての商業科目の基礎科目となっていますので、幅広い分野の中から特に興味・関心が持てる分野を探してください。						

教科名	商業		担当者				
科目名	簿記						
履修学年	1年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	4
使用教科書(出版社)	簿記(TAC)						
使用副教材(出版社)	反復式簿記問題集全商3級(実教出版)、長期休暇演習ノート簿記1(実教出版)、令和5年版 全商簿記実務検定模擬問題集3級(実教出版)						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に学習するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その仕組みについて学習するとともに、適正な会計処理を行う技術を身につけている。		適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わるものとして、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。		簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことをめざして主体的に取り組む態度をもち、会計処理を行う実践的な態度を身につけている。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ワークシート 発言・行動		単元テスト・小テスト ワークシート 発言・行動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記		<ul style="list-style-type: none"> ○「簿記とは」「簿記の目的」「簿記の種類」「簿記の歴史」「簿記の前提条件」 ○「簿記の5要素」「資産とは」「負債とは」「純資産(資本)とは」「貸借対照表」「純資産の増減から当期純損益を計算する方法」 ○「収益とは」「費用とは」「収益と費用の差額から当期純損益を計算する方法」「損益計算書」 ○「簿記上の取引」「勘定」「勘定記入の法則」「取引の2面性」「貸借平均の原理」 ○「仕訳」「転記」 			
	期末考査 まで	第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表の作成 第8章 精算表 第9章 決算 第10章 会計帳簿 第11章 現金と預金の取引		<ul style="list-style-type: none"> ○「帳簿への記帳」「仕訳帳への記入」「総勘定元帳への転記」「残高式の総勘定元帳の場合」 ○「試算表とは」「試算表の種類と作り方」「転記の正確性の検証」 ○「精算表」「6桁精算表の記入方法」 ○「決算とは」「決算の手続き」「決算の本手続きー総勘定元帳の締め切り、繰越試算表の作成、仕訳帳の締め切り」「決算の報告」 ○「主要簿と補助簿」「分課制度と帳簿組織」 ○「現金」「現金出納帳」「現金過不足の処理」「当座預金」「当座借越」「当座預金出納帳」「その他の預金」「小口現金」「小口現金出納帳」 			
2	中間考査 まで	第12章 商品売買の取引 第13章 掛け取引 第14章 手形 第15章 有価証券 第16章 その他の債権・債務		<ul style="list-style-type: none"> ○「3分法」「仕入帳」「売上帳」「商品有高帳」 ○「掛けによる売買」「売掛金と売掛金元帳」「買掛金と買掛金元帳」「貸し倒れ」 ○「手形の種類」「約束手形」「約束手形の処理」「手形の裏書き」「手形の割り引き」「受取手形記入帳と支払手形記入帳」 ○「有価証券」「有価証券の購入」「有価証券の売却」 ○「貸付金と借入金」「手形貸付金と手形借入金」「前払金と前受金」「未収金と未払金」「立替金と預り金」「仮払金と仮受金」「受取商品券」 			
	期末考査 まで	第17章 固定資産の取引 第18章 販売費及び一般管理費 第19章 純資産(資本)の取引と事業主個人の税金 第20章 個人企業の税金 第21章 決算整理(その1) 第22章 8桁精算表 第23章 帳簿決算		<ul style="list-style-type: none"> ○「固定資産」「固定資産の購入」「固定資産の売却」「固定資産台帳」 ○「販売費及び一般管理費とは」「販売費及び一般管理費の記帳方法」 ○「資本の追加元入れ」「資本の引き出し」「所得税と住民税」 ○「事業税」「固定資産税」「印紙税」「消費税」 ○「決算整理」「売上原価の計算」「貸倒引当金の見積もり」「固定資産の減価償却」「棚卸表」 ○「8桁精算表とは」「8桁精算表の記入方法」 ○「帳簿決算」「財務諸表の作成」 			
3	学年末考査 まで	第24章 伝票式会計と会計ソフトウェア 第25章 決算整理(その2) 第26章 精算表と財務諸表の作成		<ul style="list-style-type: none"> ○「証ひょう」「伝票とは」「3伝票制」「伝票から総勘定元帳への転記」「会計ソフトウェアの活用」「会計ソフトウェアの表示例」 ○「費用・収益の繰り延べと見越し」「消耗品費の整理」「有価証券の評価替え」「固定資産の減価償却(間接法・定率法)」 ○「決算整理のまとめ」「2区分損益計算書と貸借対照表」 			
学習についてのアドバイス	簿記の基本である「資産・負債・資本・収益・費用」について正しく理解し、それぞれに属する勘定科目が適切に判断できること。またそれらがどのように貸借対照表や損益計算書を構成するかを確実に学習することにより、簿記の深い内容に繋がっていきます。						

教科名	商業		担当者				
科目名	情報処理						
履修学年	1年	コース	全員	必修・選択	必修	履修単位	5
使用教科書(出版社)	最新情報処理 Advanced Computing(実教出版)						
使用副教材(出版社)	全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)、 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級(実教出版)						
学習の到達目標	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	1章 企業活動と情報処理 4章 ビジネス文書の作成		○「情報処理の重要性」「情報モラルと法規」「コミュニケーションと情報デザイン」 ○「ビジネス文書と表現」「ワープロの操作と入力方法」			
	期末考査 まで	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 4章 ビジネス文書の作成		○「コンピュータシステムの概要」「情報通信ネットワークのしくみと構成」「インターネットの活用」「情報セキュリティの確保」 ○「ワープロを利用した文書の作成」			
2	中間考査 まで	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成		○「ビジネスと統計」 ○「社内文書」「社外文書」			
	期末考査 まで	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成		○「関数を利用した表の作成」「グラフの作成」 ○「応用文書の作成」			
3	学年末考査 まで	3章 情報の集計と分析 5章 プレゼンテーション		○「情報の整列・検索・抽出」「問題の発見と解決の方法」 ○「プレゼンテーションの技法」「ビジネスにおけるプレゼンテーション」			
学習についてのアドバイス		情報処理に関する知識・技術(PC の操作方法等)を学ぶだけでなく、学習内容がいかに実社会に関連しているか興味・関心をもち、情報社会の課題や問題点について主体的に考えられる力を身につけましょう。					

教科名	総合的な探究の時間		担当者				
科目名	キャリア探究I						
履修学年	1年	コース		必修・選択	必修	履修単位	1
使用教科書(出版社)							
使用副教材(出版社)	NOLTYスコラ探究プログラム基本編(NOLTYプランナーズ)						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、地域や産業、職業に関わる総合的な学習を通して、予測困難な時代の中での自己の在り方生き方を考え、産業人として必要な以下の資質を養う。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	地域や産業と関わる探究の過程において、社会が人々のつながりによって成り立っていることに気づき、社会との関わりの中で自己がどうあるべきかを決定できる。		地域や産業との関わり過程において得た情報や経験を分析し、論理的にまとめ表現できる。		地域や産業に関する探究活動に主体的・協働的に取り組み、対話を通じて互いのよさを生かしながらすべての人がよりよく生きることができる共生社会の実現を目指そうとしている。		
評価の方法	レポート、提出物、発言、行動等を総合的に評価						
学期	単元名			学習内容			
1	興味・関心			<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに目を向けてみる ・学校の中に疑問を見つける ・地域をテーマに疑問を見つける 			
	課題設定の方法			<ul style="list-style-type: none"> ・地域をテーマに課題を見つける ・課題を解決する道筋を立てる 			
	情報収集と整理まとめ、発表			<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる情報とは ・ポスターセッション 			
	問いを立てる			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の研究テーマ決定 			
2	就業体験			<ul style="list-style-type: none"> ・研修先企業の事前研究 ・社会人としての心構え講話 ・ビジネスマナー研修 ・礼状書き方講座 ・体験報告発表会資料作成 			
	進路探究			<ul style="list-style-type: none"> ・体験報告発表会 ・3年生による進路体験報告会 ・進路講話 ・自己PRシート作成 			
3	就業体験			<ul style="list-style-type: none"> ・体験報告発表会 			
	共生社会			<ul style="list-style-type: none"> ・「共生社会」とは何か 			
学習についてのアドバイス	身の回りのものや地域に目を向け、課題やその解決方法を探ることで「考える力」を身に付けます。また、就業体験や3年生との交流などを通して進路選択や自己の生き方について深く考えていきます。1年を通して自己の生き方という答えのない課題に取り組んでいくこととなります。身の回りのことを自分ごととしてとらえ、前向きに取り組むようにしてください。						